

早稲田大学 人間科学部 化学 講評

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	問題数は例年通りで、解答時間は十分であったであろう。時間がかかるような特別難しい問題はなく、個々の設問が独立していること、ある程度の知識をもって解答できる点から、難易度は“変化なし”と判断する。解答時間が不足した解答者は、解答できなかった問題を見直すことを勧める。

〔大問別講評〕

番号	出題内容・コメント
1	問2では“Sr”の炎色反応に焦った受験生は少なくはないと考えが、教科書、資料集には掲載されているので、しっかりと無機化学の勉強をしていた者にとっては普通の問題であっただろう。
2	問7では科学の基本法則だけでなく、化学の業績はひと通りおさえおいてもらいたい。
3	有機化合物の構造決定に関する出題である。ジアステレオ異性体についての選択肢があるが、これについては、教科書や資料集には記されている内容であるから、苦戦はしなかったはずである。概ね基本的な内容であった。
4	触媒、糖類、アミノ酸、タンパク質に関する出題であるが、基本的な内容であった。
5	最後の大問が計算問題で圧倒された受験生は少なくはないだろう。問題を解答する順序をしっかりと考えて解答していたであろうか。しかし、各設問については、大変な計算問題はなかったはずである。